



《現状把握》

数学の学習意欲に課題が、個別の支援の必要性をあり、知識、応用とも正答率が低い。個別の支援の必要性がある。また、計画的に学習することを苦手としている生徒が多くみられる。国語では短答式の記述問題を解くことができない生徒がいる。数学は全体的に苦手意識をもっている生徒が多い。各教科で小テストや課題を与えることによって、学習習慣を身に付けさせ、基礎基本の定着を図る必要がある。

《授業改善のポイント》

国語では「話す力」「聞く力」を身に付けさせる必要がある。授業で自分の意見を発表させる機会を多く作る。また、その発表を聞いて自分の考えをさらに深めるような取り組みをしていく。数学では基本的な問題を今まで以上に反復して行っていく。漢字コンテストや計算コンテストなどの取り組みを通して、成就感をもたせる。すべての教科で、「授業に集中する」「わからないことをそのままにしない」ことを徹底させる。自分の進路選択に際し慌てることのないよう、自分で道を切り拓くよう話すことで、学習意欲の向上につなげていきたい。

《チャートの特徴》

「規範意識」「生活習慣」で肯定的な回答は全国平均値とほぼ同じである。「自尊感情」と「学習習慣」の肯定的な回答は全国平均値より低い。国語は「国語への関心」が全国平均を上回っている。それが、「国語の知識」「国語の活用」の力に結びついている。数学は「数学への関心」が全国平均値よりかなり低い。「数学の知識」は正答率で6%、「数学の応用」は正答率で7%全国平均正答率より下回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

学年便りなどで家庭に呼びかけ、今まで以上に家庭学習のできる環境を整えていく。また、漢字コンテストやスペリングコンテストなどの結果も学年便りなどで情報発信し、努力した生徒を学校・家庭・地域一体となって褒めるようにしていく。